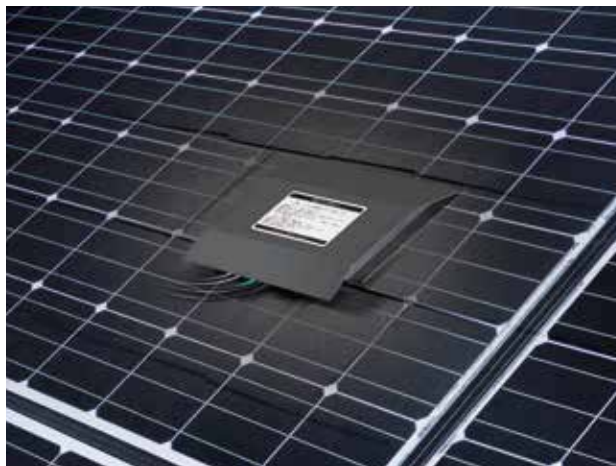


カラーベスト周辺部材／太陽光発電システム用配線引込口

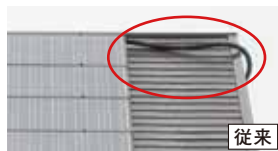
太陽光発電システムの配線が露出しないから外観がすっきり。
また屋根材との同時施工で高い防水性も確保。

《太陽光発電システム用配線引込口》 2017年4月3日新発売

屋根の外観美を損なうことなく配線ケーブルの引込みが可能です。



※本製品は、太陽電池モジュールの下に配置します。太陽電池モジュール施工後に、本製品は露出しません。



従来、配線ケーブルは軒天や表面から引込んでいたため屋根面に露出して見えます。

品名	太陽光発電システム用配線引込口
品番	KLPVH2
価格	8,000円/セット(税抜)
サイズ (露出部分)	長さ227×幅292×高さ26mm

■梱包内容および材質

部品	材質
① 上部材	耐摩カラー-GL
② 配線カバー	ASA樹脂
③ 中部材	ASA樹脂
④ 下部材	ASA樹脂
⑤ 差込板金	耐摩カラー-GL
⑥ ビス各種	ステンレス
⑦ 片面防水テープ	プチルゴム系
⑧ 施工マニュアル	—

■適用範囲

適用屋根材	カラーベストの「コロニアル」「レイシャス」のみ
適用勾配	2.5/10～(カラーベストの適用基準に準じる)
太陽光発電システム	太陽電池モジュール仕様 配線ケーブル仕様
	太陽電池モジュールと本製品が干渉しない高さのもの(本製品高さ約30mm) ●単線かつφ8mm程度のも ●3系統(配線6本)、アース線1本まで引込み可

■施工手順

① 取付け位置の確認



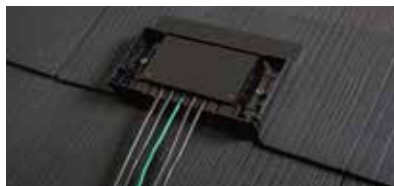
説明書に従い取付け位置を決定し、配線を引込む為の開口をあけます。

③ 本体の加工・留付け



本体を加工し留付けます。すき間にはシーリングをします。

⑤ 配線ケーブルの引込み



配線ケーブルを引込み、配線カバーを取付けます。引込んだ後、配線ケーブルを強く引っ張ると断線や漏水の恐れがあります。

② 下部材の取付け



開口位置に防水テープおよび下部材を取付けます。

④ 中部材の取付け



中部材を取付けます。ビス固定時は必ず先孔をあけてください。

⑥ 上部材の取付け



上部材を取付け、残りの屋根材を葺き上げます。

■本製品をご採用頂く際の留意事項

本製品をご採用頂くにあたり、下記事項に留意してください。

① 本製品の適用可否の確認

- ご検討の太陽光発電システムに本製品を使用できるか「適用範囲」を事前にご確認ください。

② 本製品の取付け位置決定

- 本製品は最上段の太陽電池モジュールに隠れる位置に設置する必要があります。太陽電池モジュールの配置図等をもとに、本製品の取付け位置を決めてください。

③ 現場への資材搬入

- 本製品は、屋根材の施工中に取付けるものであり、配線ケーブルの引込みも同時に行う必要があります。屋根材の施工までに、必要な配線ケーブルを現場に納品してください。

④ 屋根材および太陽光発電システム用配線引込口の施工

④-1 屋根材の施工

- 「カラーベスト設計施工マニュアル」に準じて施工してください。

④-2 太陽光発電システム用配線引込口の施工・配線ケーブルの引込み

- 本製品の施工は、必ず屋根専門工業者様が行ってください。また、配線ケーブルの引込みも同時に行なってください。施工方法は、本製品の施工マニュアルに準じてください。
- 配線ケーブルを引込んだ後は、配線を引っ張らないでください。
- 屋外に露出する配線ケーブルの養生は、太陽光発電システムメーカーの仕様に準じてください。

④-3 残りの屋根材の施工

⑤ 太陽光発電システムの配線工事

- 配線工事中に、本製品から引込んだ配線ケーブルを引っ張らないでください。

本製品は、屋根材の施工中に取付けるものです。

また、本製品取付け後は、上部材を容易に取り外すことができない為、配線ケーブルの引込みも屋根材施工と同時に進行する必要があります。

手順を誤りますと、施工した屋根材を剥がす等の屋根専門工事が再度必要になりますので十分ご注意ください。本製品をご採用頂く際は、**次頁以降を必ずお読みの上**、本製品の採用可否、本製品の取付け位置、引込む配線ケーブルの長さや養生方法、施工手順および作業工程等について、**事前に住宅会社様、太陽光発電システム専門工業者様、屋根専門工業者様で必ず打合せ**を行ってください。本製品の取付けおよび配線ケーブルの引込みは、屋根工業者様が行ってください。弊社は、本製品の仕様・施工以外に関するお問合せ、不具合対応(配線のトラブル等)は、お受けできません。また、これらに起因する責任は、一切負いかねますので、ご了承ください。

太陽光発電システム用配線引込口 施工マニュアル

本製品は、屋根材の施工中に取付けるものです。また、本製品取付け後は、上部材を容易に取り外すことができない為、配線ケーブルの引込みも屋根材施工と同時に行う必要があります。手順を誤りますと、施工した屋根材を剥がす等の屋根専門工事が再度必要になりますので、十分ご注意ください。

本製品をご採用頂く際は、本マニュアルを必ずお読みの上、本製品の採用可否、本製品の取付け位置、引込む配線ケーブルの長さや養生方法、施工手順および作業工程等について、事前に住宅会社様・太陽光発電システム専門工事業様・屋根専門工事業様で必ず打合せを行ってください。

弊社は、本製品の仕様・施工仕様以外に関するお問合せ、不具合対応(配線のトラブル等)は、お受けできません。また、これらに起因する責任は、一切負いかねますので、ご了承ください。

◆本製品をご採用頂く際の留意事項

本製品をご採用頂くにあたり、下記事項に留意してください。

①本製品の適用可否の確認

- ・ご検討の太陽光発電システムに本製品を使用できるか「1.適用範囲」を参考に事前にご確認ください。



②本製品の取付け位置決定

- ・本製品は最上段の太陽電池モジュールに隠れる位置に設置する必要があります。
太陽電池モジュールの配置図等をもとに、本製品の取付け位置を決めてください。



③現場への資材搬入

- ・本製品は、屋根材の施工中に取付けるものであり、配線ケーブルの引込みも同時に行う必要があります。屋根材の施工までに、必要な配線ケーブルを現場に納品してください。



④屋根材および太陽光発電システム用配線引込口の施工

④-1. 屋根材の施工

- ・屋根材の施工は、「カラーベスト設計施工マニュアル」に準じて行ってください。

④-2. 太陽光発電システム用配線引込口の施工・配線ケーブルの引込み

- ・本製品の施工は、必ず屋根専門工事業様が行ってください。また、配線ケーブルの引込みも同時に行ってください。施工方法については、「3.施工手順」に準じてください。
- ・配線ケーブルを引込んだ後は、配線を引っ張らないでください。断線や、防水シーラーにすき間が生じることによる雨漏れの原因となります。
- ・屋外に露出する配線ケーブルの養生は、太陽光発電システムメーカーの仕様に準じてください。

④-3. 残りの屋根材の施工

- ・残りの屋根材および役物を「カラーベスト設計施工マニュアル」に準じて施工してください。



⑤太陽光発電システムの配線工事

- ・配線工事中に、本製品から引込んだ配線ケーブルを引っ張らないでください。
断線や、防水シーラーにすき間が生じることによる雨漏れの原因となります。

◆安全上のご注意（必ずお守りください）

本製品の施工前に、「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しい施工をしてください。

表示内容の無視は、たいへん危険です。		誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。	
 注意 この表示の欄は、取扱いを誤った場合に、「人が傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。			
お守りください。		お守り頂く内容を次の図記号で区分し、説明しています。	
 「してはいけない」内容です。		 「必ず行って頂く」内容です。	

雨漏れ防止のための留意事項



-  基準勾配未滿への使用は雨漏れの原因となります。
-  引込んだ配線ケーブルを引っ張らないでください。断線や防水シーラーにすき間が生じる
ことによる雨漏れの原因となります。
-  配線ケーブルの仕様は適用基準を遵守してください。基準外の配線を引込むと雨漏れ
の原因となります。
-  太陽電池モジュールの下に隠れる位置に配置してください。
-  屋根材へ直接ビスを打込まないでください。必ず先孔をあけてから打込んでください。
-  本製品の施工途中で作業を中断する場合は、シートをかける等の養生をしてください。
開口部から雨漏れするおそれがあります。

保管・運搬時および取扱い時の留意事項



-  本製品の取扱い時に、放り投げ等、強い衝撃がかかるような荷扱いをすると損傷の原因
となります。
-  本製品の取扱い時および施工後は、踏んだり、上に物を置かないでください。損傷の原因
となります。
-  水濡れのおそれがなく、直接日光が当たらない場所に保管してください。

1. 適用範囲

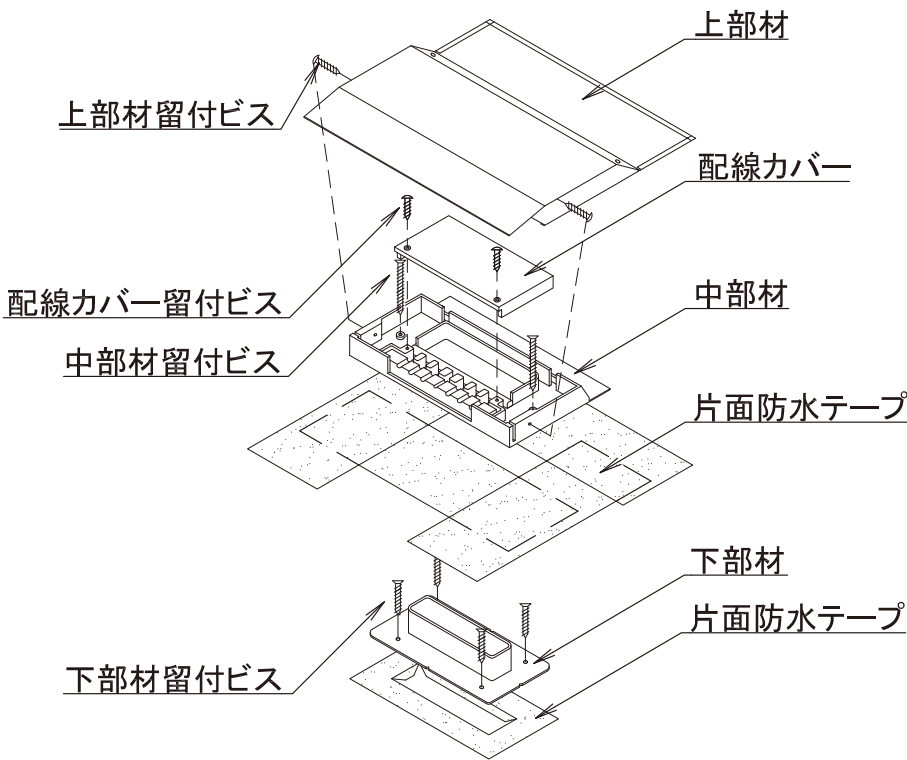
適用屋根材		カラーベスト『コロニアル、レイシャスのみ』
適用地域		一般施工地域・積雪施工地域
適用勾配※		一般施工地域: 2.5寸以上 積雪施工地域: 3.5寸以上
太陽光発電システム	太陽電池モジュール仕様	太陽電池モジュールと本製品が干渉しない高さのもの (本製品高さ約30mm)
	配線ケーブル仕様	単線かつφ8mm程度のもの 3系統(配線6本)、アース線1本までの引き込みが可能
標準部材	本体(鋼板部材・樹脂部材)	純正部材(本製品に同梱されている部材)
	留付け部材	
	防水テープ	
	シーリング材	変成シリコン系シーリング(屋根材用弾性接着剤可)

※地域、勾配により最大流れ長さおよび下葺材仕様が異なります。

2. 商品・付属品仕様

梱包内容

部品名	材質	寸法 (長さ×幅×高さ)	入数	部品名	材質	寸法	入数
上部材	耐摩カラーGL	305×292×26	1個	上部材留付ビス	SUS XM7	φ4.0×L20	3本
配線カバー	ASA樹脂	76×146×15	1個	配線カバー留付ビス	SUS XM7	φ4.0×L16	3本
中部材	ASA樹脂	144.5×230×25	1個	中部材留付ビス	SUS 410	φ4.2×L40	3本
下部材	ASA樹脂	93×176×30	1個	下部材留付ビス	SUS 410	φ4.0×L30	5本
差込板金	耐摩カラーGL	250×100×7	1個	片面防水テープ	ブチルゴム系	100×1800	1本



差込板金
※カラーベストのジョイント部
付近に施工する場合に使用
します。(最終ページ参照)

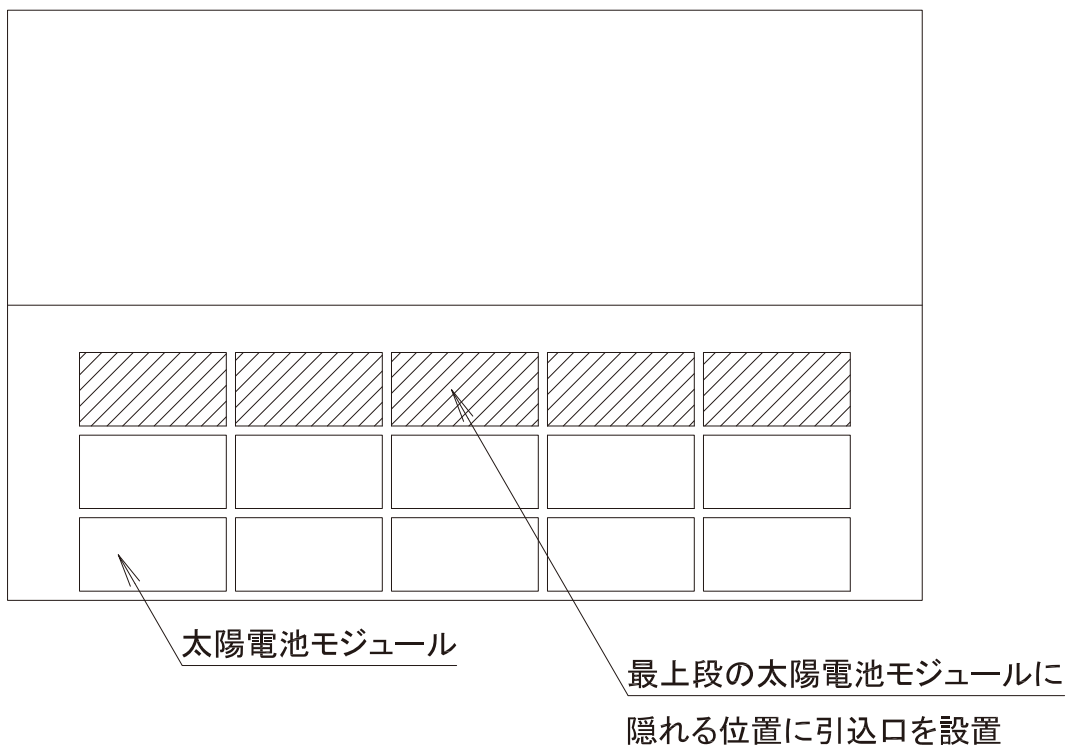
3. 施工手順

※以下、本製品名称を「引込口」と記します。

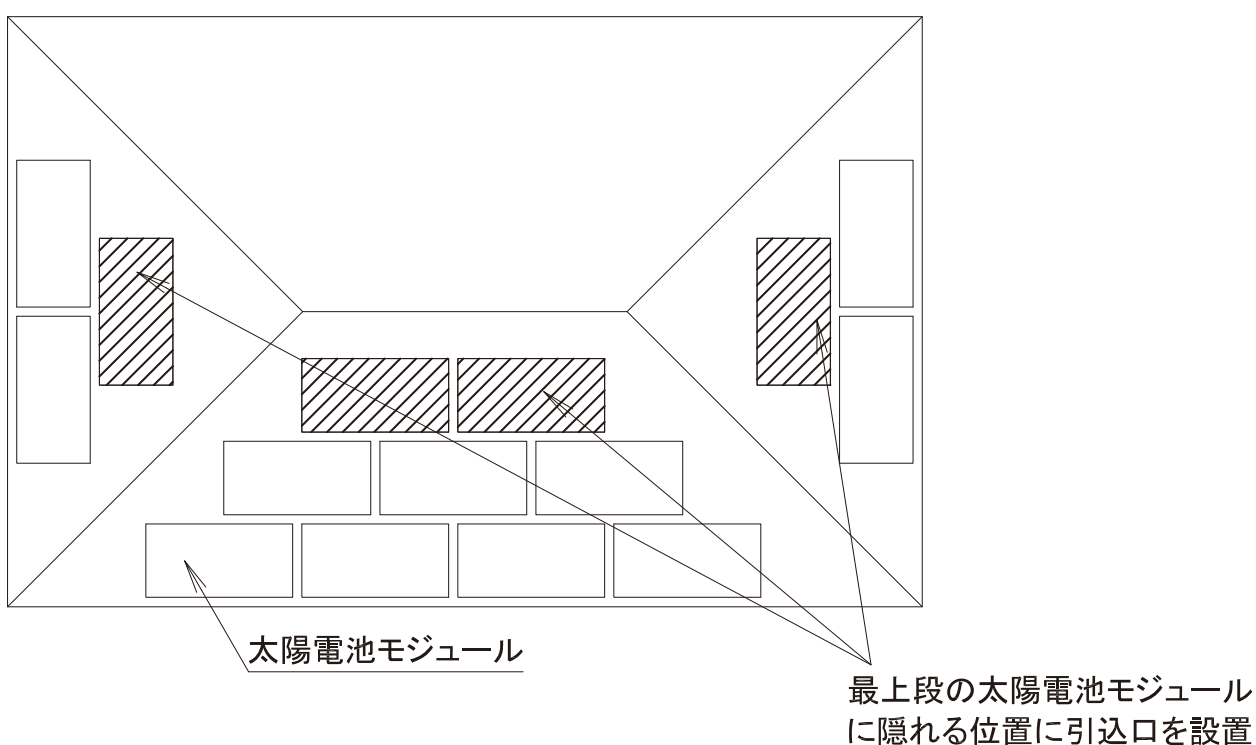
① 引込口取付け位置の確認

- 引込口は、原則、最上段に設置する太陽電池モジュールに隠れる位置に取付けます。

【切妻屋根の場合】



【寄棟屋根の場合】

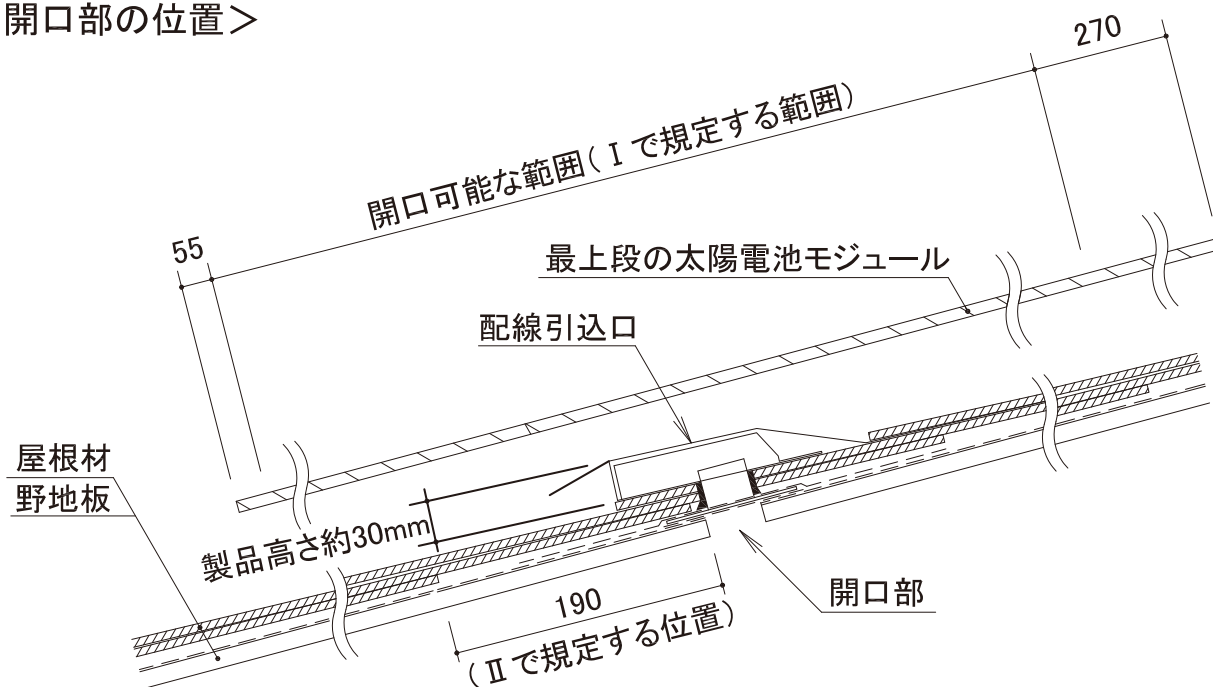


② 野地板の開口

- 引込口設置位置は太陽電池モジュールおよび屋根材との位置関係を考慮して決めます。
- 引込口施工前に必ず、太陽電池モジュールと屋根材の割付けを確認し、下記事項に留意して設置位置を決めます。
 - 1) 垂木位置は極力避けます。
 - 2) 配線ケーブルを無理に曲げずに済む位置とします。
 - 3) 太陽電池モジュールの支持金具と干渉しない位置とします。

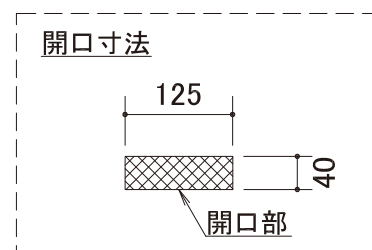
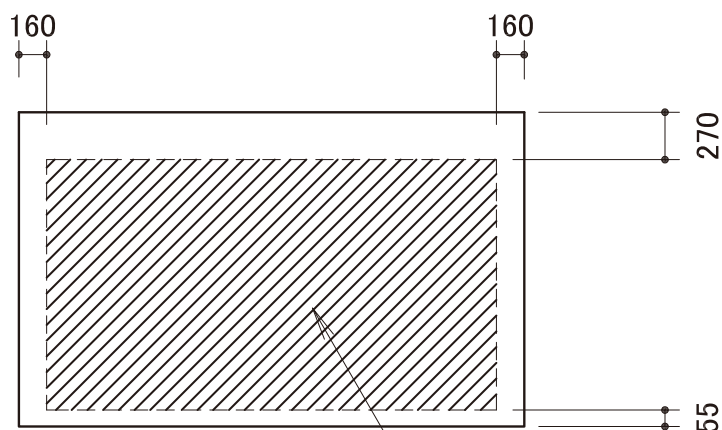
- 以下のⅠ・Ⅱの条件を満たす位置の野地板に125mm×40mmの寸法の開口をあけます。

<開口部の位置>



Ⅰ. 太陽電池モジュールに対する開口可能範囲

- 太陽電池モジュール外枠の上端から270mm、下端から55mm、左右端から160mmで囲まれる範囲

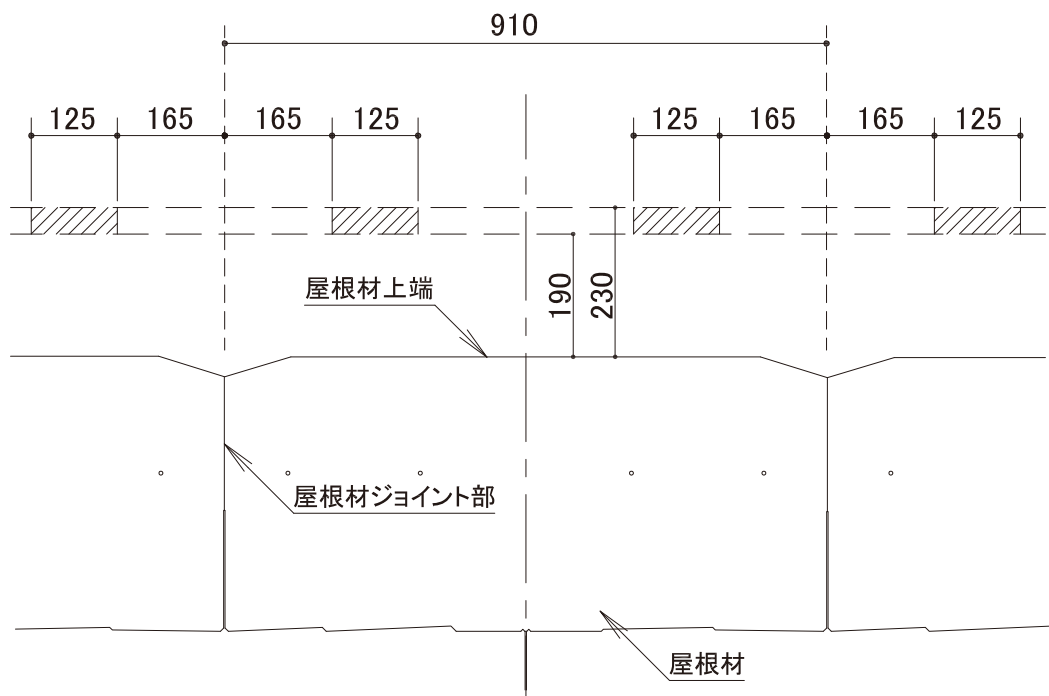


Ⅱ．屋根材に対する開口可能位置

- 屋根材上端から190mmの位置を開口の下端とします。
 - 屋根材ジョイント部から左右に165mm離れた位置を開口の左端または右端とします。
- ※やむをえず、開口位置をずらす場合、開口位置は左右方向にのみずらすことができます。
その際は、本マニュアルの最終ページの仕様に準じてください。

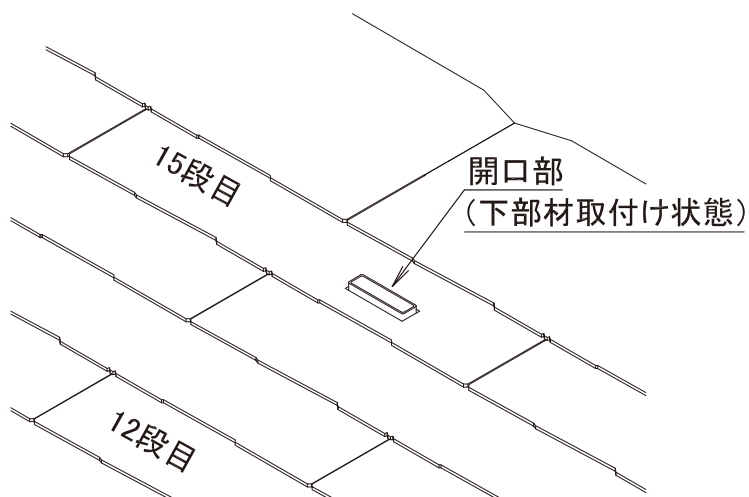
 : 開口位置

※開口をあける際は、引込口を取付ける3段下の屋根材を施工した時点で行ってください。

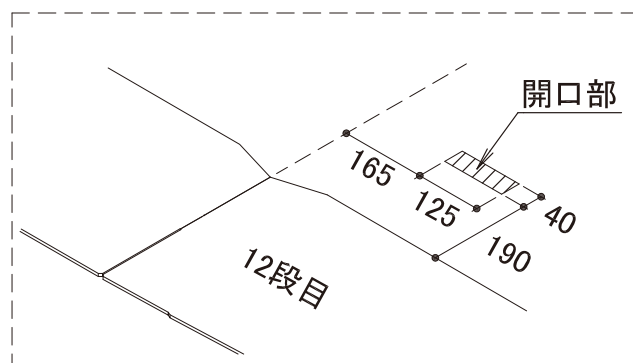


- ❗ 屋根材の釘位置から上の1枚部分には乗らないでください。
屋根材の踏割れの原因となります。

例：15段目に引込口を取付ける場合

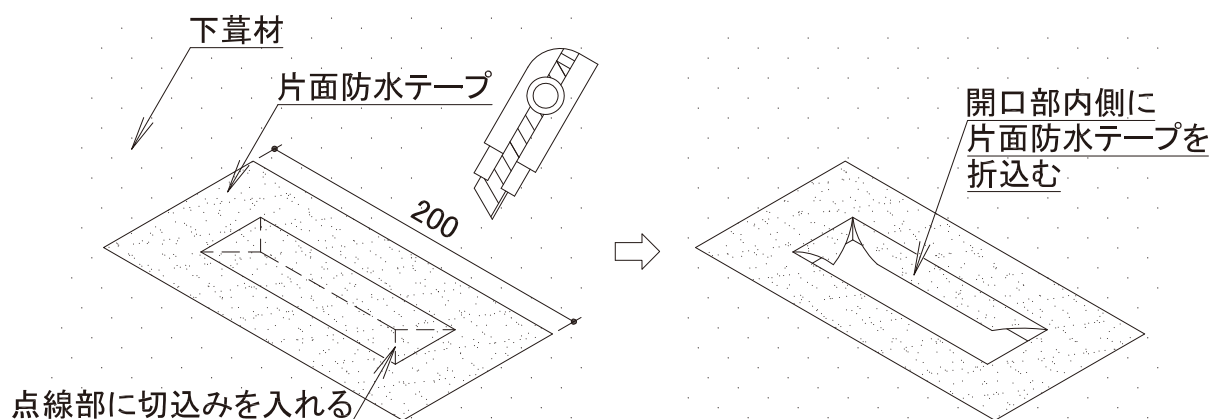


屋根材を12段目まで施工した後に、記載寸法を参考に、野地開口をあけます。



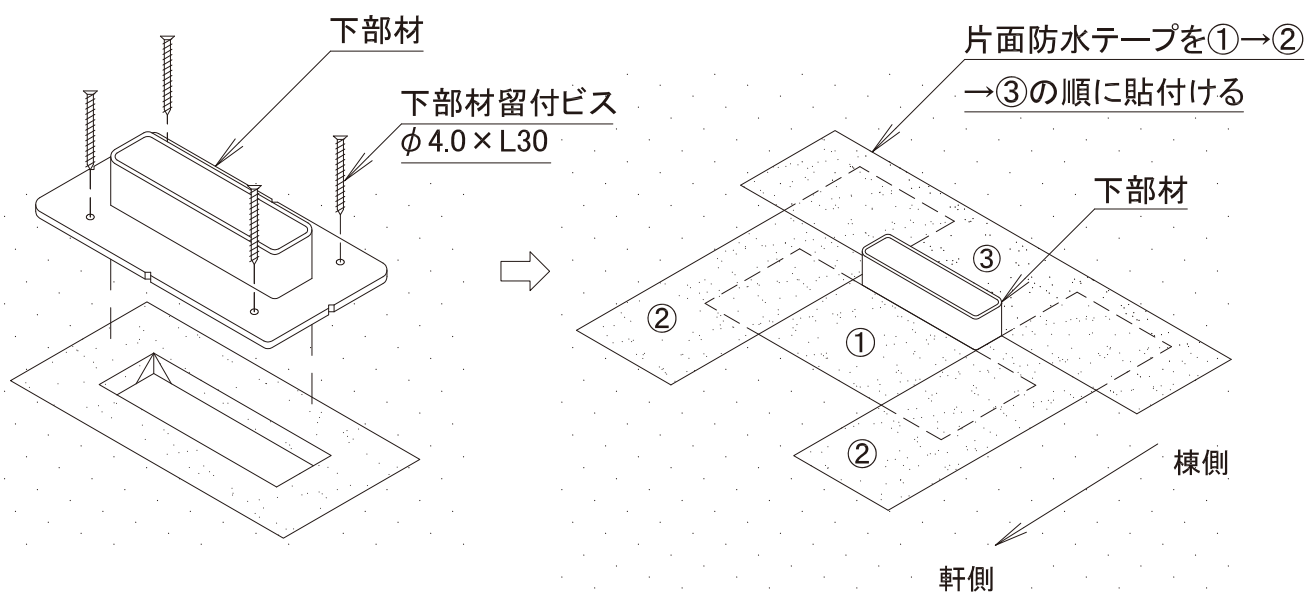
③ 片面防水テープの貼付け

- 片面防水テープを200mm程度の長さにカットし、開口部に貼付けます。
- 配線ケーブル保護のため、片面防水テープは開口部内側に折込みます。

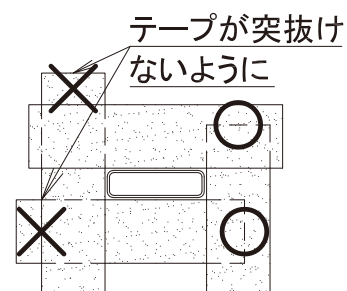


④ 下部材の取付け

- 下部材は、開口部分に合わせ、下部材留付ビス4本で野地板に留付けます。
- 片面防水テープを下部材の四周に、①→②→③の順で貼付けます。

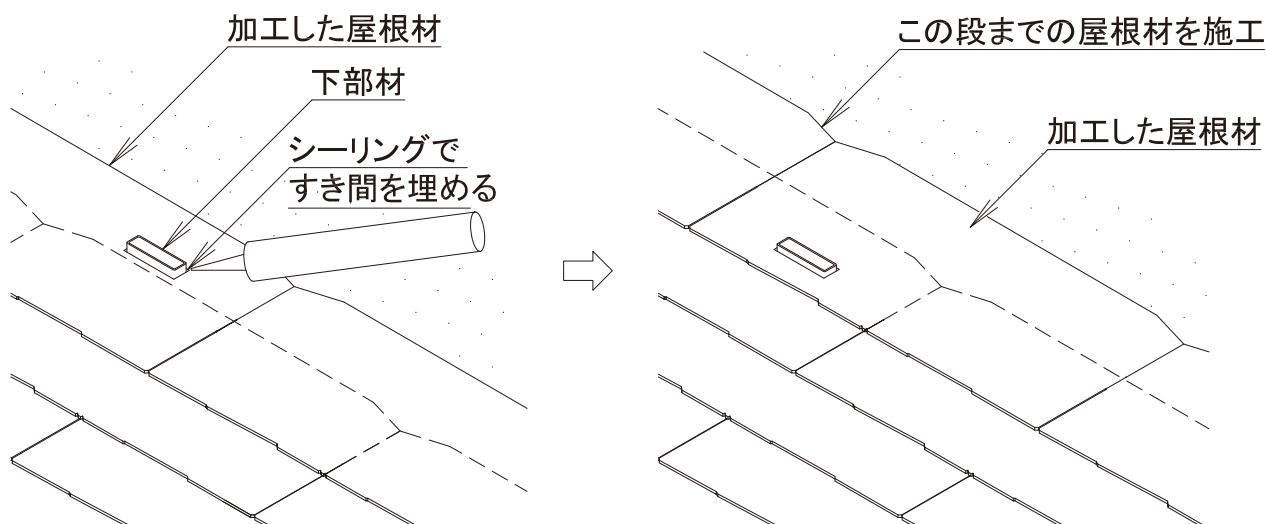


- ❗ 片面防水テープは、右図のように重ねた部分が突抜けないように貼付けます。突抜けると重ね貼り段差部が水道(みずみち)となり、雨漏れのおそれがあります。



⑤ 下部材上の屋根材の施工

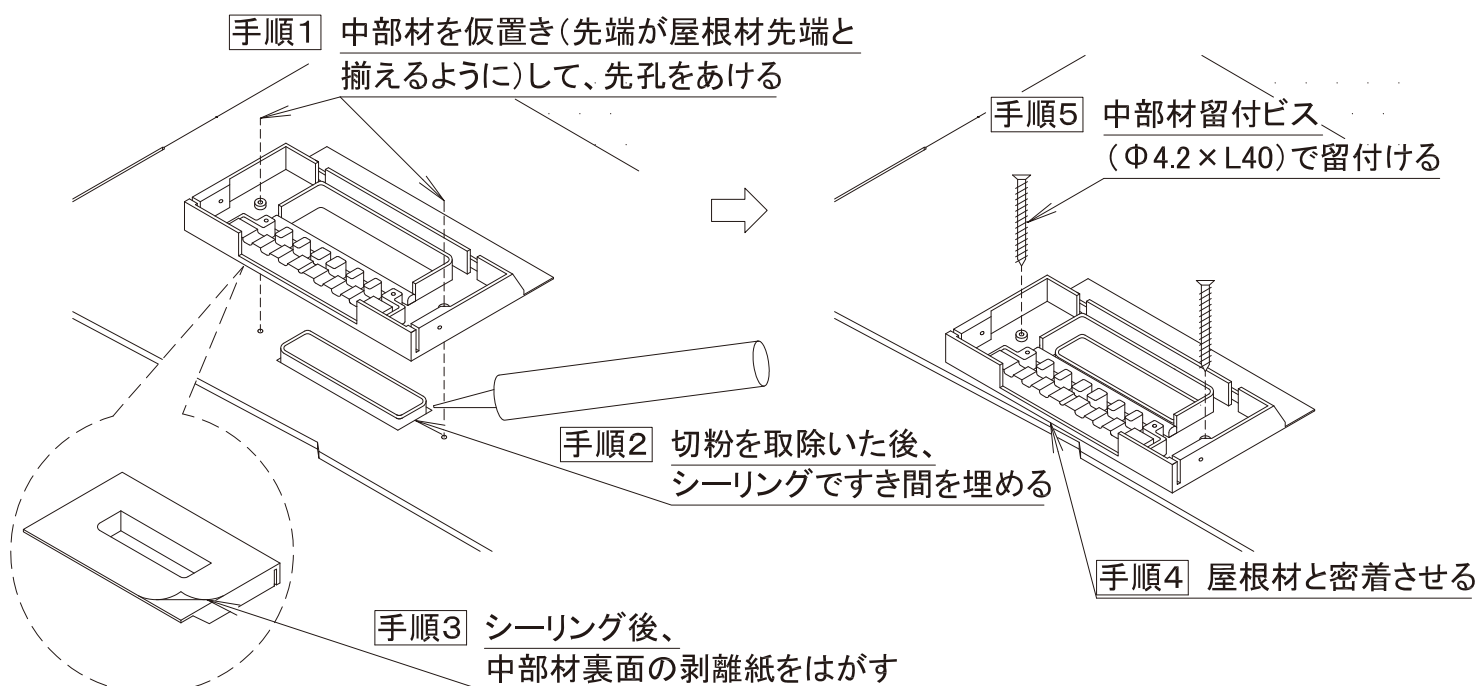
- 下部材の上に葺く屋根材を、下部材の形に合わせてグラインダー等で孔あけ加工します。
※加工した屋根材は割れやすいので注意してください。
- 下部材と屋根材のすき間を、シーリングで埋めます。



- ❗ グラインダー等での屋根材切断時、切粉で屋根面を汚さないようにご注意ください。
- ❗ シーリングがはみ出さないようにご注意ください。

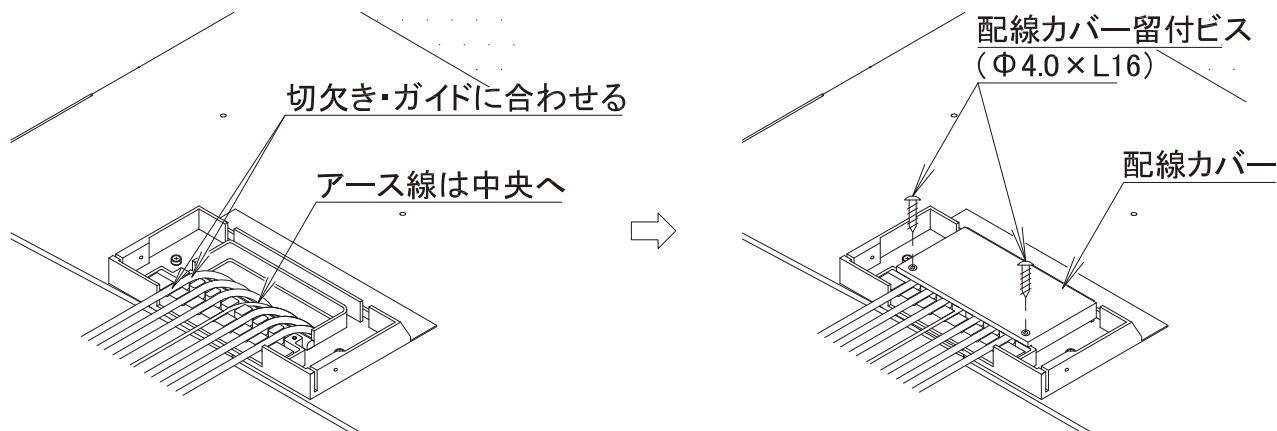
⑥ 中部材の取付け

- 中部材を仮置きし、ビス留め位置を確認した後、先孔をあけます。
※先孔をあけた時に出る切粉は必ず取除いてください。
- 下部材と屋根材のすき間をシーリングで埋めます。
- 中部材裏面の剥離紙をはがし、屋根材と中部材を密着させます。
- 先孔に合わせ、中部材留付けビスで中部材を留付けます。



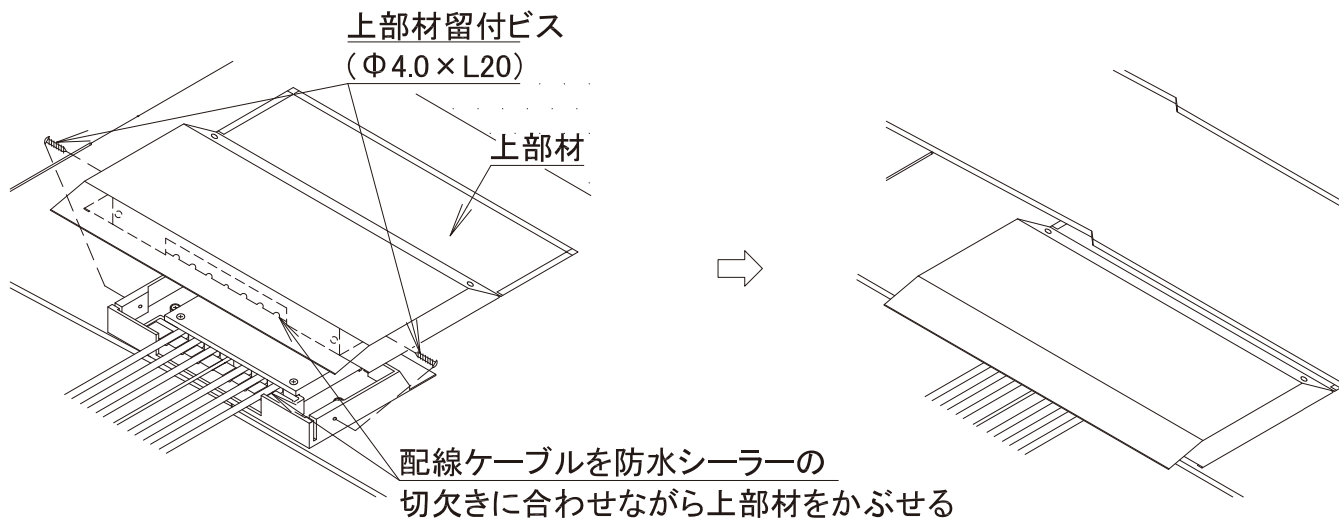
⑦ 配線ケーブルの引込み・上部材の取付け

- 中部材のガイドや防水シーラーの切欠きに合わせ、配線ケーブルを引込みます。
※3系統（配線6本）、アース線1本の引込みが可能です。
- 防水シーラーの切欠きに合わせながら配線カバーをかぶせ、
上から配線カバー留付ビス2本で留付けます。



- ❗ 配線ケーブルは、絶対に引っ張らないでください。
配線カバー取付け後は配線ケーブルを抜差しできなくなります。
無理に抜差ししようとすると配線ケーブルや防水シーラーを傷付けるおそれがあります。

- 上部材の防水シーラーの切欠きと配線ケーブルを合わせながら、上部材をかぶせます。
- 上部材は側面から上部材留付ビス2本で留付けます。



- ❗ 配線ケーブルは必ず、ガイドや防水シーラーの切欠きに合わせ引込んでください。
また、上部材の取付けは必ず防水シーラーが中部材とうまく嵌合していることを確認しながら行ってください。
きちんと嵌合できていない場合、すき間が生じ、雨漏れのおそれがあります。
- ❗ ビスの締め過ぎに注意してください。部材が破損するおそれがあります。

⑧ 屋根材の葺上げ

- 棟部までの屋根材を葺上げます。

<参考> 開口位置をずらす場合の施工

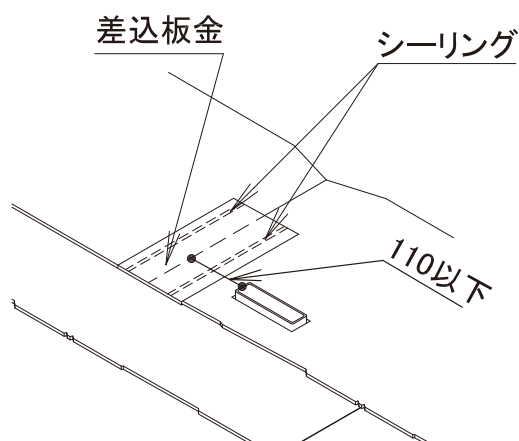
- 開口位置をずらした際、下部材の取付け位置が屋根材ジョイント部から近い場合は、差込板金または防水テープを施工する必要があります。

以下の項目に該当する場合は、差込板金または防水テープを施工してください。

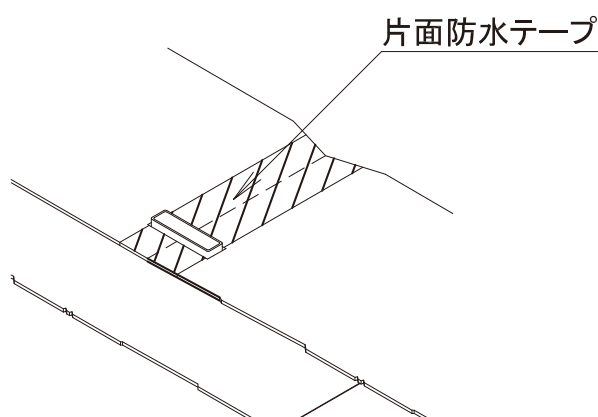
<1> 下部材の左右端と屋根材ジョイント部の距離が110mm以下の場合

- 中部材を取付ける前に、屋根材ジョイント部の両側にシーリングをし、シーリングを覆うように差込板金を施工します。

※ジョイント部と下部材の位置が重なる等、差込板金を施工できない場合は、片面防水テープをジョイント部に貼付けます。



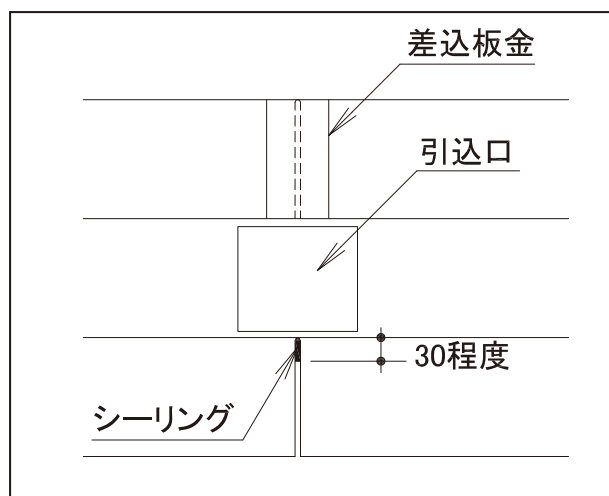
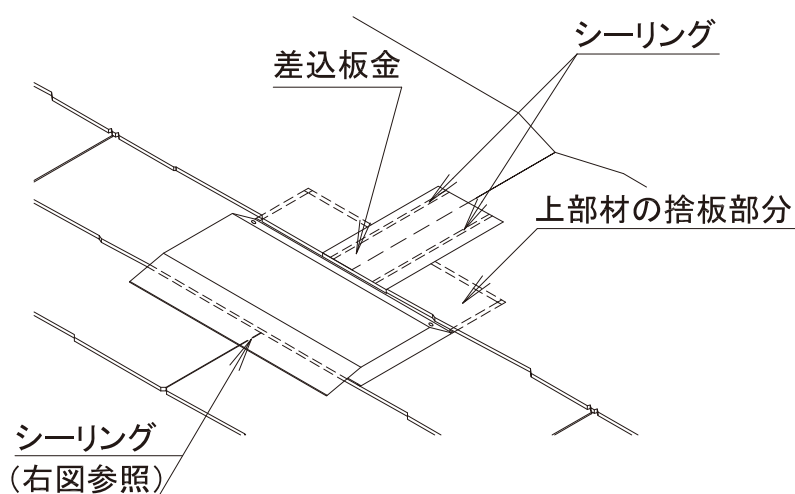
<差込板金を施工できない場合>



<2> 上部材と上段屋根材のジョイント部が重なる場合

- 上部材を施工した後に、上段の屋根材ジョイント部両側にシーリングをし、シーリングを覆うように差込板金を施工します。

また、下段の屋根材ジョイント部には、30mm程度シーリングをします。



☆施工される方がいつでも見られるところに、必ず保管してください。

ケイミュー株式会社